

5 課題設定・発問

「課題設定」は授業の方向性を決める重要な要素です。適切な課題を設定し、発問を工夫して、児童生徒の主体性を引き出しましょう。

1 課題設定のポイント

課題・・・その時間の到達目標・解決すべき問題

(1) 本時の目標から、児童生徒が**見通し**を持って取り組める内容を考える。

※見通し・・・どうやって課題を解決するか、既習事項をどう生かすか、どのように学習を進めるか、等

(2) できる限り「なぜ～なのか」「どうしたら～できるか」等、**疑問形**で示す。

※課題によっては、「～しよう。」という行動目標にもなるが、達成の判断基準を明確にする必要がある。

(3) 単元で1～2回程度は、「**主体的に学習に取り組む態度**」を評価できる課題を設定する。

※・複数の解答や解決方法のある課題

・既習事項の活用工夫を要する課題

・解決に時間や困難さを要する課題

2 課題設定の流れ

① 目標を確認

その授業でどんな力を児童生徒につけたいのかを明確にしよう!単元の目標を意識することも大切だよ!

② 児童生徒の実態把握

課題解決のために、必要な知識・技能等(既習事項)の定着はできているかな?

③ 課題を設定

目標に正対していて、児童生徒の実態に合う課題や多様な考え方や発展性のある課題を工夫しよう!

④ 課題提示の工夫

具体物を使用してイメージさせたり、児童生徒の言葉や考えを生かしたりして、課題解決への意識を高めよう!



3 発問の工夫 ～深い学びのある授業にするため～

(1) **発問の方法**を使い分ける!

- ・答えが限定的な発問(一問一答型)
- ・多様な考えを引き出す発問(オープン型)

(2) 「**ゆさぶる発問**」で考えを見直す機会を!

- ・「みんなはこう言ったけど、この方法はどうか?」(あえて誤答を取り上げる)
- ・「ほんとうにこれでいいのかな?」(もう一度考えを見返す時間を作る)

(3) 児童生徒への「**問い返し**」で思考を深める!

- ・「なぜそう考えたのですか?」(理由を問う)
- ・「どのようにしてこの問題を解いたのですか?」(方法を問う)

※その他、「意味」、「根拠」、「違い」等を意識して問い返す。

【よい発問の条件】

- 1 シンプルで明確
- 2 計画的・意図的
- 3 興味・意欲を引き出す
- 4 児童生徒の実態に合っている
- 5 タイミングを逃さない

